

OH PRIMULA SIEBOLDII SAKURASOH PRIMULA SIEBOLDII SAKURASOH PRIMULA SIEBO
OH PRIMULA SIEBOLDII SAKURASOH PRIMULA SIEBOLDII SAKURASOH PRIMULA SIEBO

さくらそう通信

創刊号
1995. 9 .30



田島ヶ原のサクラソウ

創刊にあたって

田島ヶ原サクラソウ自生地は、我が国を代表する文化財の一つです。国の天然記念物に指定されて75年、特別天然記念物に昇格して43年の歴史を持っています。サクラソウは、また、埼玉県の花、浦和市の花でもあります。サクラソウ、さくらそう、さくら草あるいはプリムラなどの名のついた場所、通り、施設、商品、刊行物などは、多く目にし、耳にすることができます。浦和市周辺は、さらに、園芸用サクラソウの栽培が盛んです。埼玉さくらそう会の本部も市内にあります。市民の日常生活の中に溶け込んでいるサクラソウは、いまや浦和市を構成する大きな要素と言えましょう。

さて、田島ヶ原に目を転じると、その保全には、さまざまな問題があることが指摘されています。これを子孫に、価値を損ねることなく伝えていくことは、並み大抵のことではありません。科学研究とそれに基づく保護対策を続けていかなければなりません。

一方、造形美としての園芸用のサクラソウも各地で活発に行われていますが、特別天然記念物として

浦和市教育委員会教育長 浅見 匡

の自生地をもつ浦和市としては、最も由緒ある土地であることを自負し、さらに発展し、そのメッカになっていくことを願わずにはられません。

「人と緑が調和する人間優先都市」を理念にまちづくりを進めている浦和市としては、この2つのこと、すなわち自然のサクラソウの保全と園芸用サクラソウの隆盛は、必要にして欠くべからざるものと言えます。

浦和市教育委員会としては、このような考え方のもとに、今年度から「さくらそう通信」という小広報誌を刊行していくこととしました。1人でも多くの方々がサクラソウに関心を持たれることを願うものです。

最後になりましたが、本年3月に発表された浦和市総合計画（第4次市勢振興計画）の中に、「サクラソウ自生地の保全とサクラソウの普及を図るための（仮称）国際サクラソウ研究センターの整備について検討していく」とうたわれています。いつの日にか実現できることを夢みて創刊のごあいさつといたします。

田島ヶ原と私

田島ヶ原（たじまがはら）を、私の少年時代には田島ッ原（たじまっばら）と呼んでいました。浦和第二尋常小学校（常盤小学校）3年生の遠足は田島ッ原に決まり、「一面にサクラソウが咲きほこる美しい野原で、天皇陛下も天覧された所です。」との説明がありました。第二次世界大戦直前の頃です。小学校から田島ッ原までは遠足という言葉を実感して歩きました。田島ッ原は他の小学校の生徒や行楽客で賑わい、野原の思い思いの場所でお弁当を広げていま



県立蕨高生による調査風景

した。先生から「サクラソウを採ったり踏んだりしないように気を付けてお昼にきなさい。」と注意を受けて散って行きましたが、サクラソウの咲き始めたばかりの原は、どこを歩いてもサクラソウを踏んでしまいそうで、なかなか座る場所が見つからなかった記憶が残っています。これが私と田島ッ原との最初の出会いでした。近所の家には「田島ッ原のサクラソウ」と言って、植えている方がいましたので、サクラソウは見て知っていました。その後、家族ぐるみの遠足の散歩や友達と鴨川へ釣りに出掛けた折に、田島ッ原に寄りましたが、そんな時、土合の田

さくら草を育てて

始めは可憐なる野草の一つとみていたさくら草、まだ原野が凍てついている厳冬の2月、地中に芽をふくらまし、3月には霜の地表に葉を持ち上げるという可憐な花に秘められた生命力に引込まれ魅力を感じ接するようになり、先祖の地でもある浦和市に生活し、優れた多くの先覚者の教えと、各種の著述にそのノウハウを授けられ、日本の園芸史上「さくら草」が登場するのは、江戸初期の頃からであり、その培養は立派に江戸文化の一つとして位置づけられ、その面から野生種、園芸種の別なく300年の伝統をもつ古典植物であることを知りました。

「さくら草」は本来日本各地で見られるものであ

磯田洋二

圃を抜ける道で、荒川の土手の方からきた青年二人の持っていた、大きなサクラソウの花束が強く印象に残っています。

戦争となり、中学校在学中に食糧増産の動員で、田島ッ原付近の堤防中段を開墾に行った時、田島ッ原も殆ど開墾されたと聞きました。背に腹は替えられない時代の事でした。

戦後も暫くして、生活は苦しいが落ち着きが戻って来た昭和25年（1950年）頃から、「田島ヶ原での耕作を禁止」「特別天然記念物に指定」「郷土の花にサクラソウ」という報道が続き、指定地を浦和市が買い取った事が伝えられました。学生の私は郷土の好ましい話題に、関心をもって成り行きを見守りました。県立蕨高校へ奉職した頃に、「田島ッ原のサクラソウは年々減っている。いや、年々増えている。」と言う論議が報道されました。「科学的に調べてみよう。」と許可を取り、生物部の生徒の協力を得て、昭和33年（1958年）から調査を始めました。

通い続けるうちに、田島ッ原の維持管理に科学的調査の欠かせない事がはっきりしましたので、私はせっせと田島ヶ原通いを続け、サクラソウ自生地の保護管理に必要な情報を、浦和市教育委員会に提供して、適正な保護対策をとっていただけてきました。改めて振り返ると、もう40年もそんなことをやっている訳です。いろいろな事がありましたが、サクラソウ自生地からサクラソウが無くならず、今日を迎えていることは幸いであったと思うとともに、今の姿をいつまでも後世に伝える努力を続けたいと念じています。

（浦和市文化財保護審議会委員）

岡村正雄



園芸種「秋の装」（岡村氏作）

りますが、低地での自生地として浦和市の荒川堤に広がった田島ヶ原が大正9年天然記念物に更には昭和27年国の特別天然記念物に指定され、一方さくら草は昭和29年NHKが郷土花に選定、昭和46年埼玉県百年記念に県花、昭和47年には浦和市の花の指定が告示されました。

浦和市においては市の快適環境づくりに、人と緑が調和する人間優先都市づ